

<p>第7-9回 (2012.11.19,12.3,10)</p>	<p>参考資料の種々とその利用 北村由美 准教授</p>
<p>■ 第7回：講義 (学術情報メディアセンター南館 203) 参加者 34名 配布資料：講義スライド / 授業概要とスケジュール / 統計資料リスト / キーワードマップ</p> <p>□本日の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考資料とは何かを理解する。 ・主題の関連語句を構造化することにより、自分の持つ研究テーマを明確にする。 <p>□講義内容 (講義スライド参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 参考図書とは： <p>「通読」するのではなく、参照することを目的にした資料。以下のときに役立つ。 トピック同士のつながりを発見する/学問全体の中のテーマの位置づけを調べる/先行研究を調べる ...</p> <ul style="list-style-type: none"> ○百科事典： <p>知識体系の構造化/定説を提示/専門家が執筆/一般人向けの内容...</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容責任の所在がはっきりしているため、引用することができる。 ・執筆者、参考文献に注目し、各分野の権威者や基礎文献を知ると良い。 ・複数の百科事典を引き比べ、内容を比較することも重要。 ○二次資料 (書誌/目録/文献リスト...)： <p>「引く」ことで求める文献・資料等にたどり着くことができる。</p> ○レビュー： <p>各研究主題について発表された文献を総覧・評価している。現在の研究動向や今後の展望を把握するのに役立つ。</p> ○統計： <p>目的・意図によって、結果をある程度操作をすることができることに注意。すでにある統計を利用する場合は、質問内容、回答者、調査目的をきちんと踏まえた上で行うこと。</p> ◎ 概念の整理とキーワード選定： <p>キーワードを抽出・構造化し、概念を言語化することで、扱うテーマを明確にとらえることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キーワードマップ作成のためのツール紹介： <p>JapanKnowledge/NDL サーチ/JDreamII/WebcatPlus/新書マップ/BSH...</p> <p>シソーラスや関連項目を活用する。テーマを広げていく=BT/テーマを絞る=NTを引くと良い。</p> <p>□キーワードマップ作成演習 (キーワードマップ参照)</p> <p>「身体」「リスク」「都市」からひとつ主題を選び、専門や興味に合わせてキーワードの選択とマッピングを行う。また、調べるテーマを文章で表現する。</p> <p>■ 第8回：演習 (附属図書館3階ライブラリーホール→1階参考図書コーナー) 参加者 28名 配布資料：講義スライド / 主題別事典リスト / 解答用紙</p> <p>□本日の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冊子体の事典・辞典類を引き、研究テーマについて基本事項を調べられるようになる。 <p>□講義内容 (講義スライド参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ アナログツール (冊子体の事典・辞典類) の活用： <p>データベースは便利だが、すべての事典を収録しているわけではない。データベースと冊子体の両方の参考資料を、必要に応じて使えるようにならなければならない。</p> <p>また、事典・辞典は複数の出典をあたることが重要。</p> ◎ 百科事典と専門事典の使い分け： <ul style="list-style-type: none"> ○百科事典：簡潔で概説的。 ○専門事典：詳細で専門的。 <p>→百科事典では平易で内容が不足している場合は専門事典を、専門事典では専門的で難しい場合は百科事典を引くと良い。</p> 	

◎ 執筆者と参考文献の確認：

事典には各項目の執筆者と、参考文献が掲載されている場合がある。

○執筆者：その項目について詳しい研究者。⇔その分野の権威者。

○参考文献：その項目についてさらに知りたいときに読む文献。

→調べをさらに進めるための手掛かりになる。

◎ 索引：

事典・辞典を引くときは、まず索引を引くと良い。調べたい項目が掲載されているかが簡単に確認できる。また関連項目が掲載されていることもある。

□附属図書館ツアー（20分） 附属図書館 1F~3Fにて

□演習（解答用紙参照） 附属図書館 1Fにて

冊子体の参考図書を用いて、前回作成のキーワードマップおよび設定テーマに関する項目の執筆者、および参考文献を調査する。

■ 第9回：演習（学術情報メディアセンター南館 203） 参加者 33名

配布資料：講義スライド / 課題の流れ / 解答用紙（ダウンロード）

□本日の目的

・必要な論文を検索し、本文を入手できるようになる。

□講義内容（講義スライド参照）

◎論文とは：

雑誌に掲載され、最新の研究成果が発表されたもの。被引用件数が多い論文は、それだけ注目されている＝重要な論文とみなすことができる。

◎論文の探し方：

○論文は専用データベースを使って探す。データベースにはそれぞれ特徴があるので、それを踏まえて使い分けると良い。

日本語データベース：CiNii Articles/JDreamII/医中誌 Web...

英語データベース：Web of Science/SciVerse Scopus/PubMed...

講義では特に、CiNii Articles、Web of Science、SciVerse Scopusについての使い方を説明した。

○探している論文をうまく検索するにはAND、OR、NOT、完全一致、前方一致、フレーズなど各種検索方法を活用するとよい。それぞれの入力方法はデータベースによって違っているので、ヘルプなどで確認しておくこと。

◎論文を選ぶポイント：

○質的評価：タイトル、著者、抄録（アブストラクト）、本文

○量的評価：被引用件数、インパクトファクター（次回以降解説）

ただし論文評価は難しいので、自分で論文を読んで価値判断するのが一番良い。

□演習（解答用紙参照）

前回演習で調べた権威者、重要キーワード（日本語、英語）を検索語にして、最も興味のある論文をそれぞれデータベースから探す。

（文責：小野恵理子・古森千尋・八木澤ちひろ）